司書教諭課程における「利用教育」に関する指導の事例
－平成23年度鳥取大学「司書教諭講習会」から－

鳥取短期大学司書課程　宍道　勉

今回の発表概要
講義「学習指導と学校図書館」にあたって述べたこと
・受講者自身が「学習指導」で「図書館をどう教えるのか」でなく、「どう利用したら児童生徒に取って良いのか」を、自ら図書館で実践しながら考える（受講者が受け身では困る）
・この講義全体こそ司書教諭が学校で実施するためのシミュレーションである
・司書教諭（学校司書）のステータス向上、学校図書館の重要性を実践をもって認識する

A．講義目標
1．「方法（論）」から「実践（体感）」へ
学習指導の「方法」でなく，図書館（資料）を使った「学習」を実践する
2．「教える」のでなく「自ら体験」して「納得する」のが学習
通常の教育現場では、教師が教科書通りを教えようとするが、ここでは「自主的学習」とはどう言うこと（意義と内容）かを自分で確かめる

B．講義の進め方
1．講義
レジュメの内容を「教えない（説明を加えない）」ので自ら理解するよう努める
2．実践（演習）
図書館（講習先の鳥取大学附属図書館）で自ら考えて学習する

C．講義内容
1．予め受講者に自らの「国語辞典・漢字字典」を用意してもらった理由
学校の学びにはアナログ辞書が不可欠であること
1）小学校，中学校によっては「辞書，辞典」を使わない授業が行われているが「何故？」なのか
2）「辞書，辞典」も自分のものでなく、授業のときだけ使うように図書館に置いていることをどう思うか
3）考えたり調べたりする時間を与えないですぐ教えてしまう日本の教育を問う
分らないことは児童生徒が自ら辞典（辞書）で調べることをしないことに着いて
自ら問題を解決することよりも，教える方が楽だから？
時間に追われているから？
4）疑問を解き，教科教育に於ける「辞典・辞書」の有効性を考える
そこに児童生徒の自発性が生まれないか（受講者が実践をしながら考える）
3．図書館がブラックボックスであっては行けない
図書館とは学校司書や司書教諭だけが知っているのではなく、児童生徒も図書館の内と外を知ることが大切であること
1）児童生徒に図書館を教えるために
そのためには受講者自身が図書館を知る
a．図書館を教えるにあたって受講者が図書館の「恒常的」利用者であること
b．図書館とは何かを自ら利用することによって図書館の問題点を探り理解する
図書館を調べることに利用しないし、読書しない司書教諭が「図書館利用法」や「読書法」を云々するのは「泳ぎのできないプールの管理人」に等しい
（受講者が）日頃いかに図書館を利用していないかを理解する
2）利用教育を行うのは学校司書、司書教諭であることの自覚
4．何を教えるか

１）図書館利用教育
（図書館とは何か）
ａ．図書館の仕組み
ｂ．図書館の利用法
閲覧・貸出
ｃ．図書館利用マナー
ｄ．図書館の歴史
なぜ図書館ができたのかを知ることが図書館の使い方に繋がる
図書館が本を借りるところでないことを認識させる
２）参考資料のこと
児童生徒が自ら調べることを前提として，受講者自身が改めて辞書辞典類をどう使えば良いかを考える
ａ．辞典の概要
ｂ．国語辞典と漢和辞典
辞書を読ませる
序論、凡例を理解させる
言葉（国語辞典）漢字（漢和辞典）の順序と配列を知る
どのようにつくられたのか、なぜ辞典ができたのか
ｃ．百科事典、その他の辞典
３）「辞典カード」で自分の「カード辞典」を構築する
－１　自らつくることで辞典の仕組みを知るのが目的
言葉カードを作るが、単なるカード辞典の構築ではなく「学びの記録」であるから、出会った言葉（普通名詞、固有名詞）「本」も入れていい
ａ．Ａ４用紙を４つ折にして、４枚のカードを作る
ｂ．「カード目録」の形式にする
見出し（読み）、漢字、意味、調べた辞典、
（本の場合は書誌事項）
記録した日付、何処でであったのか
ｃ．蓄積する
次にその「言葉（本）」と出会ったときカードの内容を豊かにする
ｄ．配列する
ことばには「語順・音順」があることを知る
ｅ．中身を豊かにする
－２　カード辞典の利点
ａ．いつでもできる
小学校一年から、大学生、社会人でも
ｂ．何処でもできる
教室、図書館に「用紙」とハサミを置く
ｃ．誰でもできる
司書教諭（学校司書）だけでなく、一般の教師の協力があるとなお良い
C．実践（演習）
１．調べ学習の「課題」を考 える
一般に教師が児童生徒に「課題」を与えているが、それでは興味関心を持つとは思えない．だから受講者自ら「課題」について図書館資料を利用して「決め」、先ずは「自分の辞典」で意味を調べ、またその他「辞典（事典）」で内容を膨らませる
２．カード辞典の作成

ａ．設計
ｂ．作成
用紙を切って「自分用」のカードを作る
c．ことば（本）の見出し
出会う「言葉（本）」を辞典カードに記録する
３．（課題に関する）図書館で資料をさがす
ａ．書庫内を自由に歩く
ｂ．必要と思う資料を検 索する
ｃ．読みたい資料を選ぶ
辞典カードの記録
４．資料を読む
５．大事なことばを辞典カー ドに
６．まとめ
ａ．概要を書く
ｂ．発表する
内容は5W1H
D．まとめ（司書講習）
目的
１．学校に於ける「利用教育」の目的を語り、その必要性を納得してもらう
２．「受講者」が自分で「利用教育」の必要性と方法を考え、見つける
３．受講者が「利用教育」を自分でシミュレートする
結果と問題点
１．受講者が[国語辞典][漢和辞典]の凡例を読んだことがない（使い方が不十分）という事実
２．受講者が利用教育こそ「教育」の原点であることを知る
３．図書館の利用は「自ら学ぶ」ことであることが分る
４．最終レポートで「とても面白かった、学校の現場で試みたい」とあった（追跡調査ができていない）
５．他の司書教諭科目でも行う
（後日談）小学校現場での実践
１．鳥取大学附属小学校５年生７８人
「本と図書館」を語る（平成24年２月21日）
２．方法
４５分間パワーポイント授業
３．図書館の国語・漢和辞典を利用
４．「カード辞典」の作成
反省 講師の不手際と不慣れと時間的不足
継続的に行うこと
５．今後の課題
１）大学教員（研究者）と現場教師「共同」による実践と研究の継続
２）全ての教科に適用できるので 繰り返し行う
全ての教師にどう理解してもらい、どう協力を得るか
３）１年生のときからやるのが良い（担当の先生）
４）「カード辞典」方式を広めるには